

日本医学教育学会45周年記念公開シンポジウム
「医療系教育における分野別質保証の現状と将来」
平成25年7月28日：千葉大学 亥鼻キャンパス

歯学教育分野から

日本歯科医学教育学会
東京医科歯科大学歯学部

俣木志朗

大学改革推進等補助金「医学・歯学教育認証制度等の実施」事業①

事業の目的

日本の医学部・歯学部の国際標準の教育を実施していることを証明するとともに、国際標準を超えるグローバルかつ優れた医師・歯科医師を養成するために、日本における国際標準の医学・歯学教育認証制度等の基盤を構築することを目的として実施（H24～28予定）

24年度の主な取組状況(歯学)

- 歯学教育認証評価検討WG、幹事会開催
- 諸外国での認証基準と認証評価の調査
- 評価項目検討のためのWS開催(12月)
- 歯学教育認証評価検討WGシンポジウム

「日本の歯学教育認証評価のあり方について」

平成25年3月6日開催(新潟)

25年度の主な取組予定(歯学)

- 認証評価基準のブラッシュアップ
- 諸外国での認証基準と認証評価の視察・調査
- 評価実施組織の設置に向けた検討
- 認証評価(トライアル)実施要項の作成
- 認証評価(トライアル)実施大学における自己点検評価の開始
- 事業に関するホームページの開設
- 公開シンポジウムの開催

21世紀医学・医療懇談会 第1次報告 平成8年6月13日

「21世紀の命と健康を守る医療人の育成を目指して」

◎「我が国における医療人育成において、最も改善を要するのは実習であり、**医師および歯科医師育成における臨床実習**、**薬剤師育成における実務実習**、**看護婦(士)(当時)(現看護師)育成における実習**など、それぞれ飛躍的に充実させる必要がある。」

◎各大学・学部の理念・目的に基づいた**統合カリキュラム作成**

◎モデルカリキュラムの作成 → **モデル・コアカリキュラム**

◎**患者の信頼を得られるよう**、事前に参加する学生を十分教育し、その学力をチェックする。 → **共用試験システム**

◎教育を評価するシステム構築の必要性

認証評価制度

◎態度・技能を評価する試験の導入 → **OSCE**

平成21年1月30日

基本認識

- 臨床実習に係る時間数の減少や臨床能力の格差に加え、いわゆる大学全入時代の到来や歯科医師過剰の中での入学者の資質能力の低下や格差が指摘され、臨床能力の更なる低下等を招き、歯科医療の信頼性に関わる深刻な事態も憂慮。
- 国民から信頼される確かな臨床能力を備えた歯科医師を養成する質・量ともに適正な歯学教育について議論。第1次提言としてとりまとめたもの。

改善方策

1. 卒業時までに必要な臨床能力の確実な習得を保証するシステムの確立

- 臨床実習に関し、講座や診療科の個々の指導教員の影響が強く、評価が不十分
- 臨床実習に必要な患者の協力が困難になり、歯科医師国家試験対策に追われる中、診療参加型の臨床実習の時間数が低下

- 診療参加型臨床実習の単位数の明記、卒業時到達目標や必要臨床実習項目の明確化
- 臨床実習終了時の各大学でのOSCE（客観的臨床能力試験）の実施
- 学外機関を活用した臨床実習の促進

2. 優れた歯科医師を養成する体系的な歯学教育の実施

- モデル・コア・カリキュラム、共用試験の導入の中で歯学教育の特色が希薄化
- 共用試験の実施時期を境に座学と臨床実習に大きく分離

- 体系的教育課程の編成を推進する専門教員の配置やFDの充実
- 歯学教育モデル・コア・カリキュラムの見直し
- **歯学教育の質を保証する第3者評価の導入**

3. 歯科医師の社会的需要を見据えた優れた入学者の確保

- 激しい受験競争が依然として存在する反面、入試の選抜機能が低下する大学も見られ、歯学部入試を巡る状況が2極化
- 歯科医師過剰が職業としての魅力の低下や臨床実習に必要な患者の確保等に影響

- 入学者受入方針の明示や入試関連情報の公開
- 面接、高校との連携等、学力のみならず意欲、適性等を見極める各大学の入試の工夫
- 優れた入学者確保が困難な大学、国家試験合格率の低い大学等による入学定員見直し

4. 未来の歯科医療を拓く研究者の養成

- 基礎と臨床が有機的に融合された研究や、患者や疾患のきめ細かな分析に基づいた研究が必要
- 学部段階から、常に自らの診断・治療技術等を検証し磨き続ける意欲や態度が必要

- 学部教育の中で実際の研究に携わる機会の拡充
- 歯学系大学院を人材養成の目的に応じて明確化
- 国際的に優れた若手研究者養成のため、個々の大学の枠を超え連携した拠点形成

今後の検討

- この提言を踏まえた各大学や関係機関の取組状況をフォローアップするとともに、**歯学教育の質保証の方策等を議論。**
- 文部科学省は各大学の改善計画を把握し、改善を推進すること。
- 文部科学省・厚生労働省が緊密に連携し、モデル・コア・カリキュラム、共用試験、国家試験、臨床研修を含め、卒前・卒後教育を一体的に捉えた検討を要請

平成20年度 大学評価研究委託事業

「歯学教育の質の保証と向上のための第三者評価システムに関する調査研究」
研究代表者：荒木孝二 東京医科歯科大学医歯学教育システム研究センター教授

「歯科医師の養成と歯科医療・歯学の発展を担う
研究者等の養成を担う大学の歯学教育の質の
保証と向上を図る観点から、国内外事例の収集
と関係大学・団体の意見聴取を踏まえ、第三者
評価の基準モデル等を提示し、第三者評価シス
テム導入のための基盤となる調査研究を行う」

海外調査

1. Singapore Dental Council (Singapore)
2. Australia Dental Council (Australia)
3. American Dental Association
Commission on Dental Accreditation (CODA)
4. General Dental Council (UK)
5. Netherland
6. Thailand
7. China

DentEd Projects and Global Congresses on Dental Education

- DentEd 1998-2000

プラハ



- DentEd Evolves 2000-2003

シンガポール



- DentEd III 2004-2007

ダブリン



General Dental Council (GDC)

- 会員の登録料によって運営される非政府機関
- 「患者保護の強化」が最優先の目的
 - 1) 倫理の基準維持
 - 2) 歯科専門職の登録
 - 3) 歯科専門職の質の向上
 - 4) 歯学教育の質の保証
 - 5) 歯科医療に関わる患者サポート

GDCによる歯学教育の認証評価

- 歯学教育の水準を社会に対して保証するため、国内のBDSプログラムを **6年毎** に訪問調査
- 同時に歯学部最終試験への立会い
- 訪問者グループ 21名（GDCの教育委員会が指名）
 - 1) 非専門家4名、歯科教育者12名、歯科医師4名
(71名応募者から選考)
 - 2) 歯科関係者1名
- 2日間にわたる評価者トレーニングを受講

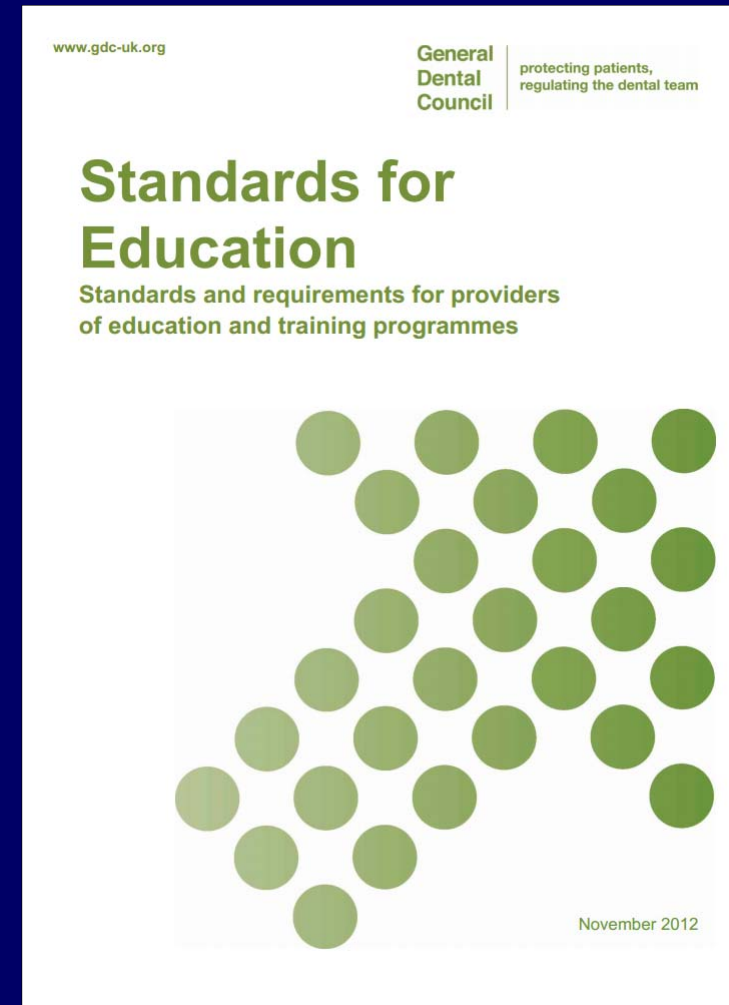
英国 General Dental Council (GDC)

患者の保護(8)

プログラムの品質評価(7)

学生の評価(11)

平等性と多様性(3)



米国の歯学教育について

- ・ ADA/CODA (American Dental Association, Commission on Dental Accreditation) 認証を受けているプログラムを実施している米国内の歯科大学は64大学
- ・ 歯科医師になるには、National Board Dental Examination のパート1, パート2に合格し、州が実施する臨床実地試験に合格することが必要。これらの試験の受験資格は、ADA/CODAの認証を受けたプログラム(カリキュラム)を終了していることである。
- ・ 米国64歯科大学は4年制か3年制。最近の10年間で年平均1.7%入学者増、2010年卒業生は4,996名、そのうち45.3%が女性。

米国 American Dental Association,
Commission on Dental Accreditation
(ADA/CODA)

施設(機関)の有効性(9)

教育プログラム(25)

教員と職員(5)

教育支援サービス(11)

患者ケアサービス(9)

研究プログラム(3)

Commission on Dental Accreditation

Accreditation Standards
For Dental Education Programs

認証評価について

- 基準を満たし、改善への提案 suggestionがある場合には報告義務なしの認証

“approval without reporting requirement”

- 基準を満たしていない項目があり、改善への提言 recommendationがある場合には、報告義務付きの認証

“approval with reporting requirement”

- 6か月毎に改善状況について報告義務があり。
- 1年半が経過した段階で歯科大学は立場を説明する機会を与えられる。
- 2年経過後も改善が見られない場合には、認証取り消し

International Accreditation by ADA/CODA

認証を受けた米国・カナダ以外の歯科大学卒業で、
米国の免許試験受験資格が取得可能

INTERNATIONAL CONSULTATION AND ACCREDITATION FEES *

1. Payment/Check should be made out to the American Dental Association.
2. Drawn on a U.S. account in U.S. dollars.
3. Send to:

The Commission on Dental Accreditation
c/o Anthony J. Ziebert, DDS, MS
211 E. Chicago Ave., Suite 1900
Chicago, IL 60611

認証を受けるのに約1300万円、
維持費としてその後約76万円の年間登録料

4. Fee Categories
 - a. Application fee for PACV Survey - **\$3000.00**
 - b. Focused Consultation Service:
 - a. **\$12,500.00** Focused Consultation Fee
 - b. Actual costs for Focused Consultation Visit, including travel, hotel, meals for 2 volunteers/staff for 7 days; estimated **\$12,500.00 to 15,000.00**
 - c. Preliminary Accreditation Consultation Site Visit (PACV):
 - a. **\$25,000.00** Consultation Fee for submission of PACV self study
 - b. Actual costs for Preliminary Accreditation Consultation Site Visit, including travel, hotel, meals for 4 volunteers/staff for 7 days, estimated **\$25,000.00 to \$30,000.00** **ここまでで \$85,500**
5. Actual costs for Accreditation Site Visit, including travel, hotel, meals for 7 volunteers/staff for 7 days, estimated **\$44,300.00 to \$47,000.00** **最後までいけば \$132,500**
 - a. Annual Fees are **\$7,800.00** per year (once accredited, programs must pay this fee every year)

* Fees are subject to change each year.

Guidelines for International Consultation and Preliminary Accreditation Consultation Visit (PACV) Survey
American Dental Association (ADA) /Commission on Dental Accreditation (CODA) Revised: May, 2009

ADA/CODA スタッフメンバーとの面談

- Dr. Lorraine C. Lewis, Manager Predoctoral Education, Commission on Dental Accreditation, ADA
- **International CODA**について
予備調査段階、自己評価、視察の3段階。
予備調査段階で予備視察が行われる。
アジアの歯科大学では韓国のソウル大学、延世大学が資料を取り寄せるなど、関心を示している。

CODA委員の構成

- ・ 評価委員会 Review Committee (14) 各プログラムの専門家・責任者として、各プログラムに関わる認証基準 accreditation standards の見直しを行う。
- ・ Commission on Dental Accreditation (CODA)(30名)
- ・ 委員の内訳: 開業医、大学教員、教育専門家、評価専門家、一般人などで、歯科医師23名, その他7名。
14ある評価委員会の委員長14名が含まれる。
任期は3年間。1年において再任は可能。
- ・ 評価委員会からの提言をもとに最終的に基準改定や歯科大学の認証評価を決定する。1月と7月に会議。
- ・ 委員会スタッフ(8名): 視察の調整、視察報告書の作成などを行う。ディレクター1名、スタッフ6名 (Dr. Lewisもその一人)、補助スタッフ1名。

視察の実際

- 卒前歯学教育プログラムの場合、通常視察チームは評価者6名とCODAスタッフ1名で構成（座長は学部長クラス）
- 財政面、基礎医歯学、国家試験・免許関係など各領域の評価者の役割が決まっている。
- 卒後プログラムや歯科医師以外の養成プログラムがある場合には、プログラムにつき2名の評価者が、同時に視察を行う。
- 全体として15～18名の視察団になることが多い。
- 評価者は旅費等の経費のみ支払われるが、評価することに対する報酬はない。

- 評価者になるメリットは評価者による。
- 研究重視の大学では、ADA/CODA認証の評価者のキャリアがあまり評価されないという風潮がある？
- 「物言わぬ見学者」 silent observer
視察チームに州の代表者、大学への出資者が参加

視察を成功させるための作業で最も大切なのは、

「評価者間の調整」

ADA/CODA……………評価者の研修を、年間を通して実施

認証評価について

- 認証基準には、数的指標をなるべく入れない。
- ADA/CODA認証評価に対する受け止め方は大学によって大きく差がある。
- 教育の質の向上のために積極的に利用しようとする大学
- 通らなければならない過程としてとにかく対応する大学
- ADA/CODAとしては、認証評価を教育の目的にするのではなく、教育の質の保証の一側面として受け止めてほしいと考えている。

東南アジア諸国連合 (ASEAN) における MRA (Mutual Recognition Arrangement)

ASEAN Community (ASEAN 共同体)

2015年のASEAN Economic Community

(AEC: ASEAN 経済共同体) 設立に向け、

専門職業人の域内自由移動への環境整備

(相互認証、標準化) が進行中。

Mutual Recognition Arrangement on Dental Practitioners (MRADP) 2009年3月調印

目的

- 域内で歯科医師の移動を助ける
- 歯科医師免許の相互認証に向けての情報交換と協力体制の構築
- 標準化、資格に関する優れた取組の採用を促進
- 歯科医師の能力向上を図る機会の創出

Mutual Recognition Arrangement on Dental Practitioners (MRADP) 実現に向けて

ASEAN Joint Coordinating Committee on Dental Practitioners (AJCCD) 各国のPDRA代表者からなる委員会

Member State	Professional Dental Regulatory Authority (PDRA)
Brunei Darussalam	Brunei Medical Board
Cambodia	Cambodian Dental Council and Ministry of Health
Indonesia	Indonesian Medical Council and Ministry of Health
Lao PDR	Ministry of Health
Malaysia	Malaysian Dental Council
Myanmar	Myanmar Dental Council, Ministry of Health
Philippines	Professional Regulation Commission, Board of Dentistry and Philippine Dental Association
Singapore	Singapore Dental Council and Dental Specialists Accreditation Board
Thailand	Thailand Dental Council and Ministry of Public Health
Viet Nam	Ministry of Health

韓国

2006年 歯学教育認証機関として韓国歯学教育評価協会
を設立

Korean Institute of Dental Education and Evaluation,
(KIDEE)

ADA/CODAに準じた形で

2010年:2大学

2011年:4大学

2012年:5大学

の認証作業が実施されている。

第23回 東南アジア歯科医学教育学会 (SEAADE) 学術大会 (2004.11.1-2, 香港)

Dean's Forum

- ・ 日本歯科医学教育学会 (JDEA) が正式参加
- ・ SEAADE と KIDEE との間でMOU 交換
- ・ SEAADE Collaboration with Sister Organization のセッションで講演 (KIDEE, JDEA)
- ・ SEAADE: JDEAと相互の連携活動の強化を希望



AJCCDからの報告

(チェンマイ大学歯学部長 Thongnard Kumchaiら)

- 基本となる Competency について、タイの歯科医師の Competency を素案として議論中
- 今後SEAADE より、メンバー国の Competency および韓国、日本の関係書類の提出を要請予定
- MRADP に向け、各国大学の評価活動を継続して実施する予定